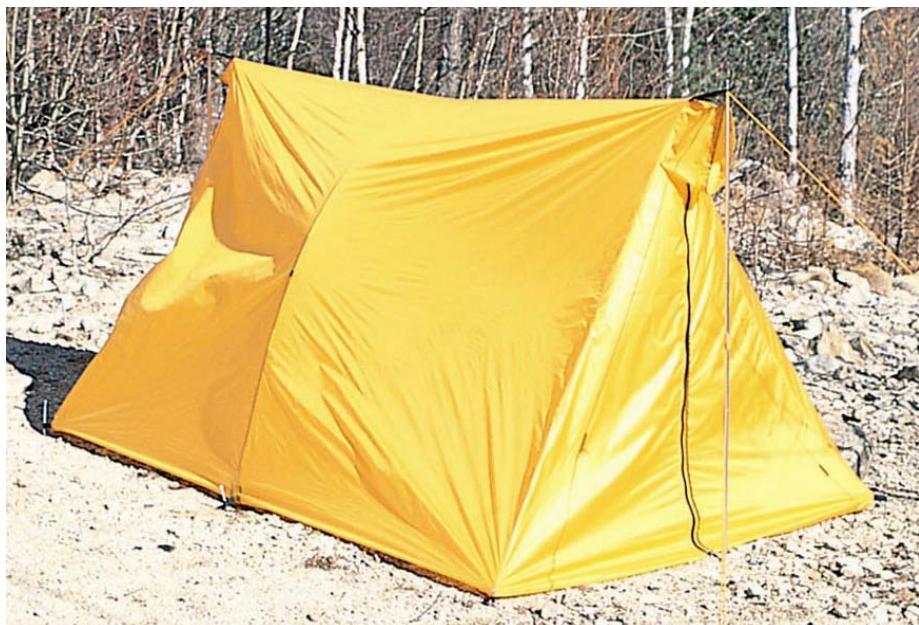


# ツェルトについて

ツェルトについてのいろいろBOOK



- ・ テントの様に設営する方法
- ・ 緊急時に使うための方法

**ARAI TENT**

# ご存知でしたか

## きちんと設営したツェルト(2~3人用)の居住空間は エアライズ2(2~3人用)よりも広いことを



スーパー・ライト・ツェルト2 <自立しません>  
ポールセット2と内フレームあわせて 770g ¥21200  
フロアサイズ 130X200cm 高さ110cm



エアライズ 2 <自立します>  
フライシートとあわせて 1550g ¥39800  
フロアサイズ 130X210cm 高さ105cm

### テントとしてみたときのツェルト(2~3人用)のメリット・デメリット

#### <メリット>

- ・ 前後の壁面が垂直なため居住空間が大きい(特に内フレームを使用した場合)
- ・ 同サイズのテントと比べた場合、重量が半分程度と軽量
- ・ 価格が安価
- ・ ポールやフレームが使えないような場合でも使用できる(多様な使用方法が可能)

上記のようなメリットは2~3人用サイズの場合のものです。

1~2人用サイズのツェルトの場合、高さが低くなるため小柄な体格の人以外では居住性が悪くなる場合があります。

#### <デメリット>

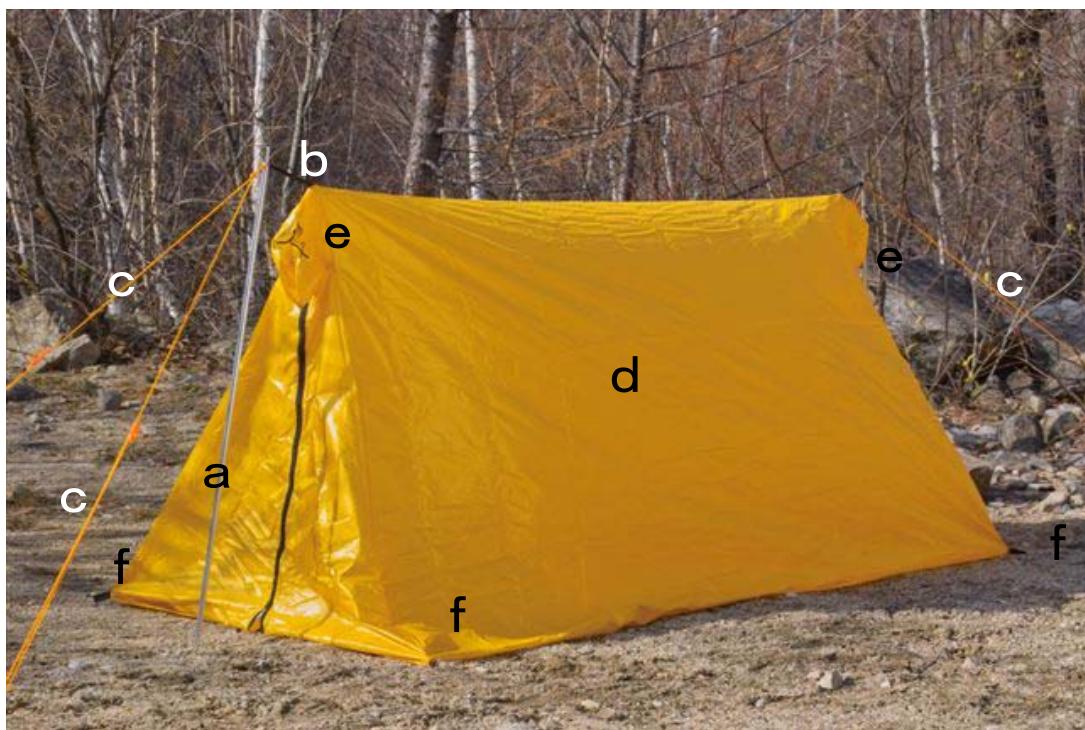
- ・ 自立しないため、設営には馴れが必要(特にペグが打てない状況では)
- ・ 通常は防水布地を使用しているため結露が発生しやすい
- ・ 床が割れているため、防水の点ではテントよりも劣る場合がある

いろいろな使い方ができるツェルト  
“非常用”だけではもったいないかもしれないですね  
伝統的な日本の山道具「ツェルト」をもう一度見直してみませんか？

## ツェルトの設営方法(アライテント製ツェルトに準拠)

ツェルトは自立しないタイプのシェルターですので、設営後の移動はできません。  
設営場所を選ぶ際には充分注意してください。  
ペグによる固定ができない場合は、何らかの方法でツェルトの固定を行なわないと  
ツェルトの設営はできないのでご注意ください。

### 1 ツェルト各部の名称

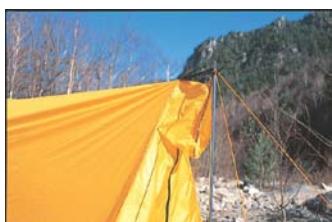


a ツェルト用ポール b フレーム受け c 張り綱 d ツェルト本体  
e ベンチレーター f ペグループ(4箇所<2~3人用は長辺の中央に  
内フレーム用のペグループがあります>)  
\* 写真はスーパーイトツェルト1~2人用

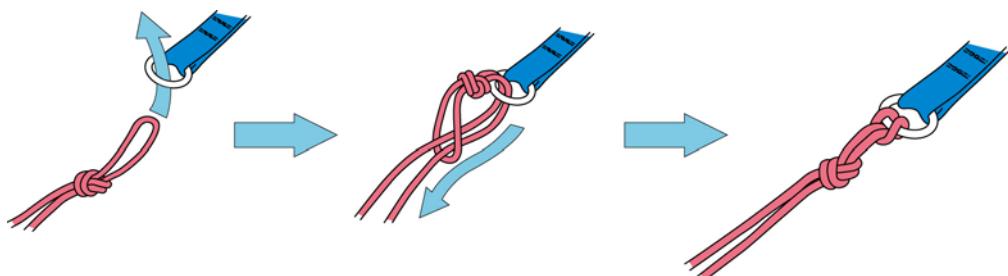
### 2 ツェルトの設営に必要なもの(ツェルト本体以外はすべて別に購入してください)

- ・ツェルト本体 1 ツェルトポール(本体と長さのあったもの) 2
  - ・張り綱 2(ポールセットに付属しています) ペグ(最低でも 8 本)
- \* ペグを打つのは石など適当な方法で行なってください。(ペグの固定の際に過度な力をかけるとペグが破損して使えなくなる場合があるので注意してください)

### 3 フレーム受けに張り綱を取り付けます。



張り綱はポールを使用しない場合でも木などからぶら下げるのに使用できるので、常時取り付けておくと便利です。  
設営に使用する張り綱はその真ん中の部分をフレーム受けに固定してV字型に張り綱が出るようにしてください。



- \* 上のように取り付けると張り綱をとる時に楽です。
- \* フレーム受けに金属リング(ハトメ)がついていないタイプのツェルトの場合  
は大きなループの方に張り綱を固定します。(固定方法はリングのあるタイプと同じです。小さなループはポールの先端を差し込むためのものです)

### 4 入口のファスナーを下まで完全に下ろします。

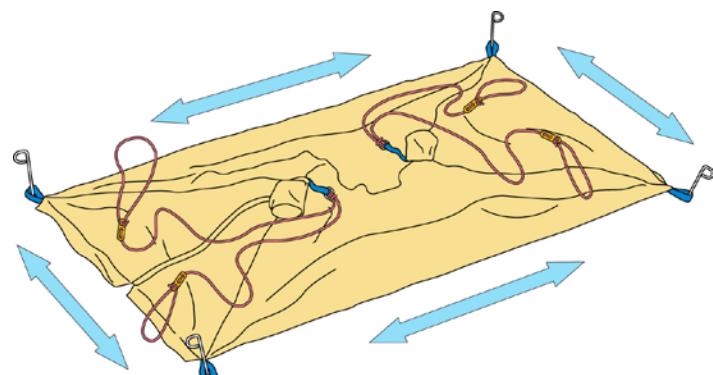
### 5 ツェルトの設営時のイメージを考えながらツェルトの各辺の頂点になる部分のペグループにペグを打ちます。

この時、それぞれの辺がまっすぐになるように注意してペグを打ってください。

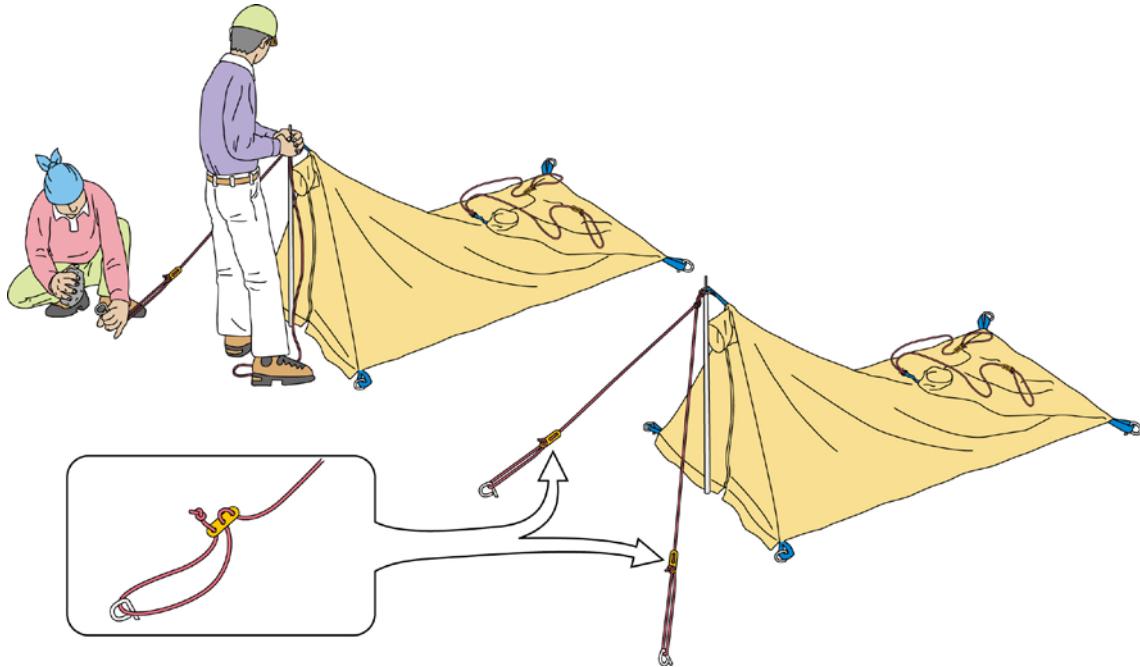
ツェルトはそれぞれの辺と辺の間の引っ張る力のバランスで設営されています。

ここで、適当にペグを固定するととの作業が上手くいかない場合もあるので、注意してください。

あまり力を入れてツェルトの各辺を引っ張ると破損する場合もあるのでツェルトの引っ張り加減には注意してください



- 6 どちらかの側のポールを立てます。(ここからは2人でやるとより確実です)  
ポールの先端の突起部分をフレーム受けのリングの中に差し込んでポールを立てます。(ポールの下側は地面の上に置くだけです)  
ポールを立てたらまず、V字型の張り綱のどちらか1本をペグなどを利用して仮固定します。  
片側の張り綱の仮固定ができたら、もう一方の張り綱も同じ手順で仮固定します。  
張り綱の仮固定の際には張り綱に付属の『自在』を上手く調整しながら行なってください。  
ペグの固定は設営場所の状況に応じて適当な方法で行なってください。  
ペグの固定の際に過度な力をかけるとペグが破損して使用できなくなる場合があるので注意してください。



- 7 ツェルトの反対側のポールを同じような手順で張り綱をセットして仮固定します。
- 8 前後のポールが立ったら、それぞれの張り綱のテンションがバランス良くなるように調整します。
- 9 ツェルトが設営できたら、ツェルトの中に入り、ツェルトの床部分をヒモもしくはその他の手段で合わせます。  
内フレーム(2~3人用のみ)を取り付けない場合はこれでツェルトの設営は完了です。(設営完了時の状態は「ツェルト各部の名称」の図を参照願います)

## 10 内フレームの取り付け(2~3人用モデルのみ)

2~3人用のツェルトには内フレームを取り付けることができます。

内フレームは強度を高めるものではありませんが、ツェルト内の空間を広げてくれる所以居住性の向上に役立ちます。



2~3人用のツェルトで内フレームを取り付ける場合は、床をあわせてから取り付けます。(床を合わせる前に内フレームを取り付けることはできません)

内フレームはフレームを接続して伸ばした状態にしてから取り付けます。

内フレームの接続は完全に行なってください、接続が不十分だとセットする時に湾曲させたときにフレームが破損する場合があります。

内フレームを接続して伸ばしたら、ツェルト側面の中央下部にある内フレーム用ソケットに内フレームの一方の端を差し込みます。

内フレーム用ソケットに内フレームの端を入れたら、内フレームを湾曲させながら、もう片方の端を反対側の内フレーム用ソケットに差し込みます。

この時、内フレームに過度な力をかけると、内フレームが折損する場合があるので注意してください。

両側のソケットにフレームをセットしたら、ツェルトの内側の側面に取り付けられたヒモで内フレームをツェルトの中央部分に固定します。(上図参照)

内フレームのセットが終わったら内フレーム用ソケットの外側にあるペグループにペグを打って固定します。

ツェルトの側面上部に張り綱用のループがあるタイプのものについては、ここに張り綱を取り付けて引っ張ると内フレーム同じようにツェルト内部の空間を広げることも可能です。

# ビバークシェルターの使用法

山に「絶対安全」はありません！

山での遭難事故が増えています。

どんなに簡単な山でも、山のエキスパートであっても、人が山に向かうときには、必ず何らかのリスク(危険要因)が存在しています。

そのリスクを認識しないで山に向かうことはとても愚かなことです。

悲惨な遭難を防ぐためには山のリスクをしっかりと認識することが重要です。

優れた山岳救助隊がいても、ヘリコプターがあっても、高機能な最新式の装備を身についていても、あるいは優れた通信手段を持っていたとしても、最終的にあなた自身を助けるのは、あなた自身が持っている「体力」と「技術」だけなのです。

自分が現在持っている「体力」「体調」「技術」を正しく認識し、山の状況を正しく認識することで、不幸な事態は、かなりの部分で回避することが可能ですが、それでも

「100%の安全」は山には存在しないのです。

「大勢の人と一緒だから」ということは、山の安全を考える上で、安全を保証する理由にはなりません。むしろ無自覚な人が多数集まることで「山のリスク」は増大する場合すらあるのです。

どうか、アクシデントを回避する技術、方法を持つ登山者であってください。

山は決して逃げ出すことはありません。

あなたがその頂に立つことを想い続けている限り、必ず次のチャンスはあるはずです。

どうか、勇気を持って引き返す判断ができる登山者であってください。

不幸にして、アクシデントに出会ってしまったとき、ほんの少しだけあなたを助けてくれるのが「ビバークシェルター」です。

「ビバークシェルター」は持っているだけでは役には立ちません。

どうか、「ビバークシェルター」の活用法を知ってください。

そして、正しいビバークの方法を習得することで、あなたの大切な生命を守る方法を持ってください。

\*ビバーク　ここでは山での予定しない露営(野宿)などをこのように呼びます。

## ビバークすることになったら

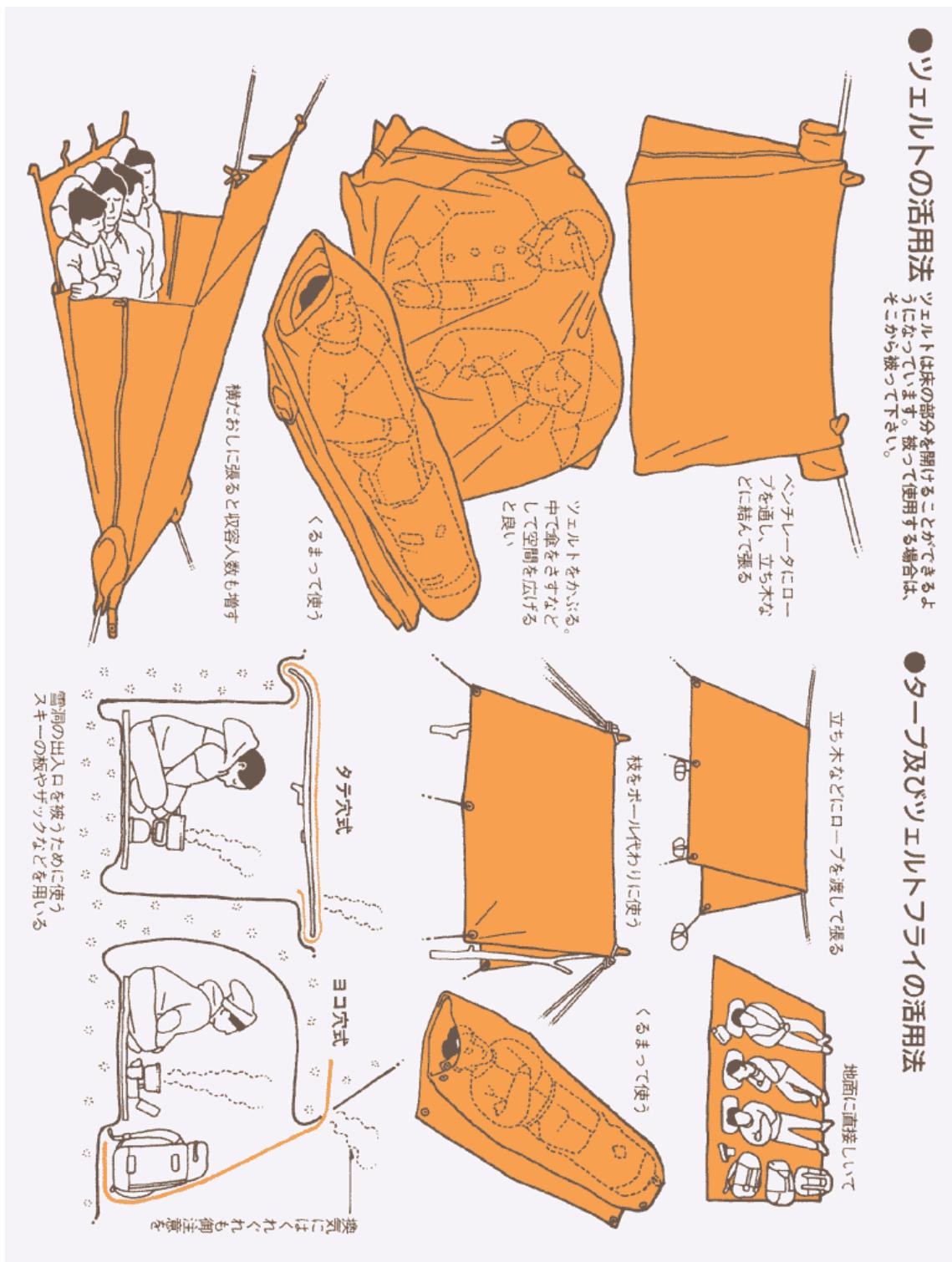
- ・ ビバークシェルターは「お守り」ではありません。  
ツェルトなどを買ったら、必ず家や、フィールドで使用する方法を練習してください。  
正しい使用方法を習得することで、万一の場合でも、比較的冷静に対応することができます。  
ビバークシェルターの袋をアクシデントにあって初めて開けるようなことは、絶対に避けてください。(かえって、あわててしまう場合だってあるのです。)
- ・ 山の遭難で死亡する原因是、外傷以外では多くの場合、体力の低下や、それに伴う体温の低下が原因の「疲労凍死」です。  
「疲労凍死」は真夏の日中でも発生します。  
体力の消耗を防ぐためにも、万一、行動不能な状態になったら無闇と動き回ることは避けましょう。  
また、体温を維持するためにも着れる物は全て着込んでしまいましょう。
- ・ 風にさらされ続けることは、体力(体温)の消耗の大きな原因になります。  
ビバークする場合は、風を避けることができる場所を見つけるようにしましょう。
- ・ 濡れることも体力(体温)を奪う原因になります。  
なるべく、衣服や身体を濡らさないようにすることは大切なことです。  
もし、乾いた着替えがあるのならば、濡れた服を身に着けたままでいることよりも、思い切って着替えてしまうほうが体力(体温)の維持のためには有効です。
- ・ 地面や雪面からも体温は逃げていきます。  
地面や雪面にじかに接するのは避けて、ザックや枯葉などを敷いてクッション(断熱層)を作ってください。  
体温の低下は、そのまま体力の低下につながります。
- ・ ビバークシェルターは風や雨、寒さからあなたの身体をガードする1枚の布です。  
吹きさらしの大空の下に、からだをむき出しのままの状態でいるよりも、空間を小さく囲い込むことができるので心理的にも安心感をもたらします。

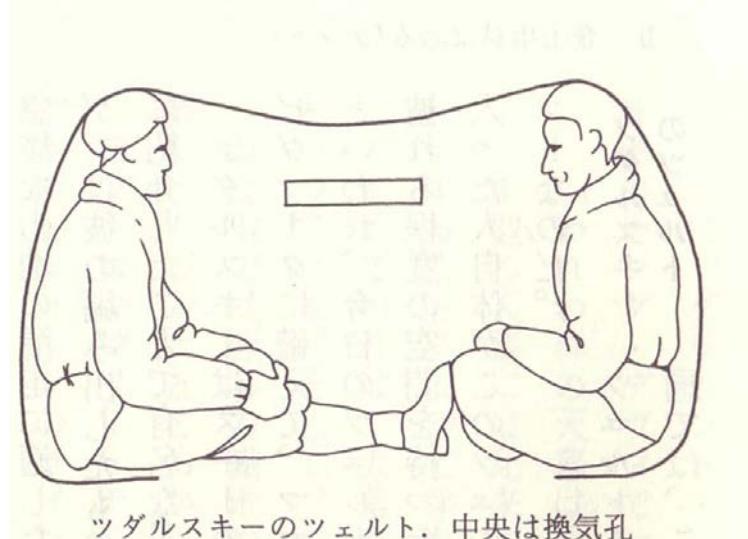
- ・ ビバークシェルターは、ビバークの時だけに使うものではありません。山で悪条件にあるときなどの休憩の時にも実際に有効にその効果を発揮します。普段から、こまめにビバークシェルターを使う習慣をつけておけば、緊急時でもあわてることは少ないはずです。

### ● ツェルトの活用法

ツェルトは床の部分を開けることができるようになっています。被って使用する場合は、そこから被って下さい。

### ● タープ及びツェルトフライの活用法





ツダルスキーのツェルト。中央は換気孔

歴史に残る最初のツェルトはヨーロッパアルプスの氷河をスキーで滑降する時の装備として19世紀後半に誕生しました。その後、欧米ではあまり普及することではなく、日本で独自の進化を遂げますが、最近ではウルトラライトバックパッキングの流行で海外でもツェルトのようなシェルターが注目されています。



現在でもツェルトは山スキーをはじめとするいろいろなシーンで活躍しています。

撮影 ツヴェート ポドロガル

**ARAI TENT**

2011-11